評価確定日:令和4年5月20日

（別紙4）　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200106		
法人名	有限会社ケイ・エム・コーポレーション		
事業所名	ランの郷		
所在地	静岡市清水区承元寺町222番地		
自己評価作成日	令和 4 年 3月 25日	評価結果市町村受理日	令和4年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2294200106-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 4年 4月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全ての入居者が心地よい場所と思ってもらえるように心がけています。
それを取り巻く環境が入居者に安心感を与える事でしょう。
誰もが最初は緊張しながらこの施設を訪れる事と思います。でも、玄関に入った途端(ホッとする)雰囲気と職員の明るさが迎えてくれます。温かい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな地域の古民家を改装した1ユニットのグループホームで、開設から15年が経過しているが、玄関、廊下、障子やふすま等に懐かしさを感じる。ご近所から花や野菜が届けられるなど、地域に密着した交流もあり、ホームの運営を気にかけてくれている。職員の勤務年数や経験年数にバラつきがあるが、情報を共有して利用者に寄り添った支援をしている。利用者は日中に将棋やパズル、塗り絵等好きなことを行い職員と談笑しながら過ごしている。気候が良くなったので、感染対策に気を配りながら縁側に座ったり、庭を散歩するなど外気浴を楽しんでいる。管理者は常日頃から介護職としても現場に入っているので職員の様子がわかり、就業意欲を引き出し、職員の定着率を高め、楽しく働けるように心掛けている。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

No.	項目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげるよう今、毎日改革中です。日々努力している。	事業所理念を玄関に掲示し、職員は業務日誌に必ず目を通すようにして情報共有をしている。管理者は気づいたことや職員の相談に個別に向き合い、話を聞いて問題を解決するようにしている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にたのまれ事をされた時には、出来る事は協力している。	施設の両隣やお向かいの住人には、まめに声かけや話をするなど、事業所について理解を得、お花や野菜の差し入れを頂くなど、良好な関係性を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設はオープンにしている。見学する事もできます。質問があれば相談にも応じています。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナオミクロン感染者が減少しない為、書面でお願いしています。	コロナ禍で運営推進会議は2か月に1回書面開催している。アンケートで委員に意見を書いてもらうようにしている。議事録は参加予定者と全家族に送付し、コロナ後を見据えて、意見の吸い上げに注力している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村から連絡がある時は、施設として、出席するように心がけている。	行政の担当者には運営推進会議の事や防災の事等の疑問点は、電話で質問や相談を行っている。地域包括支援センターの職員には入居者の紹介のお願いをしている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、委員会を作り、委員が主になり資料を基に3ヵ月に1回勉強会を行っている。	マニュアルは整備されている。委員会は代表職員で構成されていて、研修内容資料を準備したり研修の計画をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全ての職員が理解しており、言葉の虐待に関しても、職員一人ひとり利用者様の対応に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に成年後見者制度を使用された方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者様の家族と時間をとっていただき、十分な説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話で対応させて頂いています。毎月、職員が作る「ランの郷便り」を発行し、利用者の日々の様子を伝えながら、家族との連携を図っている。	家族には毎月お便りと写真付きの利用者の様子を書いた「ランの郷便り」で報告している。合わせて時々献立表を一緒にキーパーソンとそれ以外の利用者の家族にも送っている。コロナ収束後は家族と一緒に食事会を計画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部からマネージャーが来て、職員の面談を行っています	法人本部のマネージャーによる年1回の個人面談や評価シートにより職員の課題や意見を吸い上げている。管理者は職員からの意見の聞き取りに努め、職員全体で共有すべき情報は月例ﾐｰﾃｨﾝｸﾞで取り上げている。	職員から研修をしたいという意見が多いので、法人本部と話し合って介護の基礎や認知症対応の基礎等の資料を準備し、タブレットやPC等の環境整備をすることを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護の年数で初級、中級、上級、評価シートを作っています。 個々に話を聞くように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して見るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同じグループホームが有りみんなで交流をしましょうという声が掛かったのですが、コロナ禍の為、話は進んでいない。利用者の紹介をしてくれました。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後、必ず職員は利用者様に挨拶をし、一緒に話をしたり、一緒に過ごす時間を職員一人一人努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が何か聞きたい事、困ったことが生じた場合、電話対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後、問題が上がった時、本社に聞き家族に聞き、職員会議を開いて問題解決につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とは何でも話せる関係になれる様、職員一人一人心掛けて努めています。時間を掛けます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	用事のある利用者様は前日に家族が施設に連絡をしてくれます。こちらから家族に電話をして欲しいとお願いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がある場合、面会はオープンにしている。電話対応もOKです。	コロナ禍ではあるが、感染対策を取りながら家族や知人とはガラス越し面会ができるようにしている。家族などから利用者に電話や手紙があると取次ぎを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は必ず利用者様についています。その時にゲーム、歌、話題の提供に心掛けています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設を紹介し、分からない事があれば相談にのっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に希望・意向は把握している。入居時のアセスメントシート「ご入居相談受付簿」にて利用者、家族の情報が整理されており、これを基に日々の生活の中から利用者の行動や意向の変化の把握に努めている。	利用者の介護度が軽度になり、自分から思いや意向を言える利用者が増えてきた。家族に相談しながら思いが叶うような支援をしている。職員は利用者との会話や遊びの中から得られた、一人ひとりの思いや気づきを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	穏やかに暮らせるように生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日1日心身状態が変わる為、個々が必要とする必要性を常に話し合いながら取り組んでいる。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回介護計画とモニタリングを職員会議で話し合っている。	月例の会議でモニタリングを行っている。業務日誌や個人ノートを活用して医師や訪問看護師の意見を参考にして、本人や家族の要望を反映して介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ノートを記入し申し送りする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人対応を心掛けている、御家族とも話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りの環境に恵まれている。自然を感じながら生活をしている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診をお願いしている。ご利用者様の具合が悪くなった時は必ずかかりつけ医に連絡をし、先生の指示をうけて動いている。先生の指示を受け、病院に受診に行ったり、先生が往診してくれます。	月1回協力医の往診を受けている。利用者の体調変化時は医師に連絡し支持を受け対応している。週に1回訪問看護師が健康チェックを行っている。また、3か月に1回歯科医の訪問診療も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週1回の支援を受けています。個々に利用者様が相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者には、個人の情報を提供し病院での様子を伝えてもらっている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は入居時に説明している。重度化した場合、終末期に入った場合、主治医と家族と話し合いをしていただき、施設は先生から指示を受けて介護にあたっている。	入居時に重度化終末期についての対応を説明し同意書をもらっている。状態に変化があれば、医師から家族に説明し同意の再確認をしている。事業所は医師の指示を受け支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設で出来る事は限られている。その時に慌てないためにも、日頃から早め早めに対応をし、記録している。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期検査の時に防災訓練を行っている。地域の消防署に訓練をお願いしている。災害備蓄品は5日間分を目途に、本部対応にて、備蓄管理されている。	年に2回訓練を行い、夜間の訓練について地域の消防署に相談をしている。消火設備会社に消火器の扱いについて相談し訓練を実施した。備蓄は5日分用意し本部で管理している。停電に備え乾電池や足元灯の再点検を行い、施設の両隣や向かいの住民とは日頃から協力体制を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が優しく利用者様に接するように心がけている。利用者様の人格を尊重し言葉遣いに気をつけ、行動も自由にしている。	職員は利用者の思いをくみ取るようにして、優しく接するように心がけている。管理者は職員の対応に問題が見られた時には注意をしたりミーティングで取り上げるなどの対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が常に利用者様のそばにいて思いを聞くように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして、行動を抑制していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理美容をお願いしている。本人の気に入っている洋服を基本的には着て頂いている。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、温かいものを提供しています。	食材は食材配達業者より配達され、職員が調理をしているが、時には地域の人から届く野菜や果物の差し入れを献立に入れ、利用者の好みに合わせた味付けで好評である。食材業者のミニ情報を載せた献立をお便りとともに家族に送付するなどの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥性肺炎にならないように一人一人に配慮をして食事を準備しています。必ず職員が見守ります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。本人が出来ない時は職員が介助している。歯科医が3ヶ月に1回訪問、ケアしてくれている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し記入している。時間でトイレ誘導をしている。自立している人も職員が見守り確認をしている。	「排泄チェック表」に記録をし利用者個々の排泄パターンを把握して、早めのトイレ誘導を行っている。夜間は体調にあわせておむつ対応にしたり個々によって変えているが、日中はできるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談をして薬の処方と水分摂取や運動に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間入浴の予定をたてているが個々に沿った希望タイミングで入浴を支援している。	週に2回午前中に入浴を支援している。寒い時期に拒否される場合もあるが、人をかえたりタイミングを見たりして入浴できるよう工夫している。入居直後に強い拒否があった方が、個々に沿った支援を行う事で現在は進んで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日に入浴する人の寝具類を洗う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好きな事を聞く。施設で道具を揃えている。毎日遊んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、病院への通院以外は外出を制限しています。	コロナ禍でなかなか外出することができなかったが、気候が良くなってきたので十分な感染対策を取りながら最近は庭を散歩したり、縁側で外気浴を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設ではお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話は利用者様につないで会話を楽しんでいる。贈り物が届くと必ずお礼の電話をかけ会話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、職員が清掃している。消毒も毎日行っている。清掃した後もトイレが汚れているか確認をして清掃消毒している。	玄関、台所、居間等昔の民家の面影があり、居間は陽当たりも良い。玄関には地域の方の差し入れの花が花瓶いっぱい活けてあった。職員は感染症対策に心掛け、毎日こまめに清掃消毒を行っている。利用者は自分の好きな場所でゲームや囲碁や塗り絵をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに自席がある。自室で休んだり、リビングに座ったり自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室になっている。自分で生活できない人のために分かりやすく整理整頓をしている。	入居時に使い慣れたタンスなどを持参してもらっている。家族から届けられた好みの服を着て、身綺麗にしている利用者もいる。季節の衣類の交換時は家族が協力して家で保管してもらうようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護用ベットを使用して頂いています。シンプルでわかりやすく安全面でも転倒がないように動きやすいスペースを作っています。		

（別紙4（2））

事業所名：ランの郷

目標達成計画

作成日：令和　4年　5月　　20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員から、介護の資格を取りたい、研修をしたいという意見が多い	・タブレットやPC等の環境を整備する ・資料を準備する	・初めに本部に話をする	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。